

平成 14年6月4日 杉十小開放講座第3回

テーマ「人の血液型と性格」 講師 大村政男 日大名誉教授

講師プロフィール

大正14年東京生まれ 昭和23年3月 日本大学法文学部文学科心理学専攻 卒業後大学院（旧制）および法務府技官（現在の法務技官）を経て、日本大学文学部教授を務める。現在 日本大学名誉教授兼文京学院大学客員教授 文学博士 日本心理学会認定心理士 日本応用心理学会応用心理士などで活躍中
趣味 ピンバッチ収集、ダイバー、タイピン、カフスポタン製作

司会

今回は、日大の文理学部教授を長い間なさっていて、現在名誉教授をされている大村政男先生です。ご専門は性格心理学です。このところ毎年、講演をお願いしております。

先生はテレビでも、ずいぶん活躍しておられて、現在はTBSの「スパスパ人間学」（木曜日）に、ときどきご出演になっています。テレビでお顔を拝見された方も、たくさんいらっしゃるのではないかと思います。実は先ほど、先生に申し上げたのですけれども、今、テレビショッピングが、ものすごく人気があります。ある日、テレビ番組で、テレビショッピングがどのような形で、これだけ隆盛を誇っているのかということ、先生が分析されていました。たまたま私が仕事をしながら、「聞いたような声だな」と思って、ふっと画面を見ると先生の姿が映っていたことがありました。

今日も、血液型の問題について、非常におもしろい話を聞かせて頂けるのではないかと思います。あの人はA型だから、B型だからという言い方について、私はどうも引っかかるのですけれども、どうしてあのような結論が出るのか、私自身も非常に楽しみにしております。

今日はまた、たくさんの方にお集まり頂きましてありがとうございます。前回、前々回ともに、今年は非常に参加者が多くて、原田さんはじめ私ども一同、感激しているところでございます。

このように申しますのは、「杉十郷土史文化講座」が昨年度、「杉並まち自慢百選」に選出されたと聞いております。もっとも、その選考委員に原田さんが加わっているのです、そのあたりのお話になるとまた、裏話もありそうです。いずれにしても、今年は非常に出足が良く、毎回毎回、レジュメの追加印刷をする大忙しさで、私ども係りの者も、あまり先生のお話や、受講者の話を聞けないということも聞いております。どうも、長くなって恐縮でございました。では大村先生、よろしくお願い致します。

『人の血液型と性格』

大村です、こんばんは。

今日は「血液型と性格」の話をいたしますが、私は20年くらい前からこの研

究をしております。どうしてこのような研究をするようになったのかと申しますと、私が勤めていた日本大学の文理学部心理学科に「血液型と性格」というテーマで卒業論文を書きたいという女子学生がおりまして、それを機会に始めたわけです。

それまでは心理学で血液型と性格を研究するのは邪道である、と言われていたのです。と言いますか、だれもやっていなかったのです。私もしたくはなかったのですが、しょうがないのですようになります、それが病みつきになって、とうとう20年くらいもやっております。友達は「おまえは、血液型と性格を関係ないと言っているけれども、実は信者じゃないか？」と言います。「隠れキリシタン」みたいな存在ではないかと言っているのですが、もしかするとそうかもしれません。

お手元にプリントした紙がありますが、今日は、プリントの番号順に話を進めていきたいと思えます。

まず、最初に問題になりますのは「性格とは何だろう？」ということです。これがはっきり解らないのです。「あいつは性格が悪い。」とか、「性格が合わないから離婚する。」などと言いますけれども、だじゃれのようなのですが、性格というのは正確には解らないのです。

プリントをちょっと読んでみます。「血液型というのは非常にはっきりしていて、医学的な測定や判定にミスがなければ、十分信頼出来るものです。しかし、性格とは何か？どうやって測定し、どう判定するのか？ということになると、非常に難しい問題が山積しているのです。私は次のように『性格』を考えています。」と書いてあります。

私はそこに描かれているような四重丸で考えております。真中に黒い丸があります。そこに、私たちの大脳やホルモンのような生理的なシステムがあります。そこが私たちの性格に大きな影響をもっています。生まれたばかりの子供でも個性がありまして、よりオットリしている子供もいれば、夜泣きをしたりしてお母さんを困らせる子供もいます。それは、どうもこのあたりに問題があるようです。

それから、もう一つは、それに最も近い関係で、感情的な特徴を生み出すシステムがあります。それを心理学では「気質」と呼んでいます。よく「かたぎ」と読みますが、心理学では「きしつ」と読んでおります。非常にのんびりした人、怒りやすい人、いろいろな人がいるわけです。

それから、その外側に「性格」と呼ばれるものがあります。この「性格」と呼ばれるものは「気質」が生まれた後の経験等によって、変化したものであると言われております。徳川家康は小さい頃非常に短気な人だったそうです、若いころにずいぶん苦労をして、やがてオットリした性格になったと言われております。

その次が「社会的な性格」です。「パーソナリティ」という言葉でよく表現されております。社会的な性格でして、私たちは自分の持っている性格を社会的な場面で剥き出しにすることはありません。赤ちゃんが生まれる、お祝いに

行く、そうした場合に「ああ、可愛い赤ちゃんですね！」と言います。しかし、あのころは可愛くは無いのです。「お宅のお子さんは、チンパンジーに似てますね。」などとは言わないのであって、「お鼻はお父さんかな？お目めはお母さんだ！」などと言って褒めるわけです。それが「社会的な性格」です。けっして人に対しては悪いことは言わないようにする。ですから、性格を考える場合、一体どうなのかということになりますと、非常に難しいことになってくるわけです。

次に問題になるのは「大脳の機能（はたらき）」です。私は専門ではないのですが、「大脳」を大きな中華饅頭に例えることができるのではないかと思います。

アンコの部分が「古脳（このう）」と呼ばれるものです。古い脳です。「古脳」の中には、爬虫類や四足哺乳類などの脳に相当するものがセットされています。その外側に、人間の場合には最も優れた「大脳皮質」がありまして、これがお饅頭の白い皮に当たります。ですから、古い脳で爆発が起きても、上の白い皮の部分でぐっと抑えているわけです。よくキレル人は、これが薄いというわけではないのですが、とにかく機能的に弱い、つまりブレーキがきかないということになります。

大脳の秘密がだんだんと解明されてきましたけれども、まだまだ解らないところがたくさんあります。かなり前ですが、脳の外科手術が流行りました。「ロボットミー」です。「ロボットミー」というのは、耳の傍に穴を開け、そこから細いメスを入れて神経繊維を切るのです。1935年（昭和10年）くらいに、ポルトガルの医師が始めました。もちろん、最初はサルで実験しています。

次に、その右側を見てください。そこに「ロベクトミー」と書いてあります。これは切るのではなく、ある部分を切除してしまうのです。私の友達が、「一度、見に来ないか。」と言っていたのですが断りました。すると「見ろよ」と言うのです。そこで、私はウイスキーを飲んで見に行きました。非常に綺麗なものでした。ここで話すべきものではないのですが、とにかく脳の一部を切って取ってしまうわけです。そうしますと、今までカッとなって包丁などを振り回していた人が、すごくおとなしくなり、凶暴性が無くなってきます。ただし、脳は非常に重要な器官ですから、ある部分を取り去ってしまうと、どうしても知的な障害が起きてきます。私たちの感情生活はゆたかで、泣いたり笑ったりしていますけれども、その人は、ただ笑うだけなのです。ニコニコ、ニコニコしているのです。生き生きした人にはならないのです。ただし、暴れることが無くなりますので、そういう点は防ぐことが出来るわけです。そのようなことからして、脳に大きな秘密があることが解るのですが、もうずいぶん前から、人権上の問題がありまして、この二つの手術は行われておりません。しかし、以前は流行のように行われていた時代があるのです。

次に3番目です。「内分泌腺の機能（はたらき）」です。ホルモンの働きです。私たちの脳の中には、脳下垂体と呼ばれるものがあります。脳下垂体はある時になりますと成長ホルモンを分泌します。それから、性腺刺激ホルモンも

分泌します。それによって青年期、いわゆる思春期が始まってくるのです。しかし男である、女であることを決定するのは一体何か、ということになりますと、これがまた非常に難しいのです。

男性の場合は、睪丸を取って去勢が行われます。右上にある写真は、男性が、非常に女性っぽくなっております。皆さんご存知の中国の「宦官（かんがん）」です。昔、清（しん）の時代だと思いますが、去勢されて中国の宮廷に仕えた男性です。去勢というのは、2個の睪丸を切除すればその目的は達せられるのですけれども、昔は知識が無かったので、睪丸だけでなく男根まで切除してしまっただけです。しかも、麻酔の無い時代ですから大変でして、不幸にも出血多量で死ぬ人もいました。

それでは何故、去勢したのでしょうか。宮廷に高級官吏として勤めるのが目的でする人もいたようですが、そういう目的ではなく去勢を希望する人もいたわけですね。男性自身がついていると、誘惑が頭の中に起きてきて勉強がおちおち出来ない。だから、それを切るのだ、というわけですね。そういうすごい人までいたのです。また、刑罰で去勢された人もいました。『史記』という有名な歴史書がありますけれども、それを書いた司馬遷（しばせん）という人はある刑罰で切られてしまったのです。去勢されますと、当然、性格も変わってきます。

その下のほうを見てください。この二人はかつて男性だった人で、自ら希望して女性になったのです。高いお金をかけて手術をして女性になったわけですね。その下の顔をご覧ください。この人は、幼児のときから女性になりたかった男性でして、16歳のときに手術を受けて、その後3年間に7回にも及ぶ手術を受けました。平成9年にも2回の手術を受け、今は胸がなんと85センチ、腰が55センチ、お尻が82センチという、すごい体型になっています。ずいぶん、お金をかけたろうと思います。

その次の女の方は男でありまして、女装愛好者です。こういう趣味の人たちについての専門雑誌があります。参考までに本屋で求めたのですが、非常に高価なものです。会社に勤めていて、その帰りに、共同で用意したマンションに寄って、その後、女装して盛り場などに遊びに行くという、すごく変な人がいるのです。「こういう人の性格は、一体どうなのでしょう？」ということが問題になるわけですね。私もある資料を頼りにして、このような人たちの血液型を調べたのですが、ほとんど血液型とは関係無いのです。

その次の4番に移ります。そこに「性同一性障害」とあります。男から女になった人、女から男になった人、この二人が知り合って結婚しました。これも大変な話ですね。ここにその二人が並んでおりますけれども、左側が「平安名 祐生（へいあんな ゆうき）」という人で、これは実名です。昭和46年に生まれています。大阪で女児として誕生しました。そのときの名前が、夕子という名前です。戸籍上は女です。

右側は「平安名 恵（へいあんな けい）」、あるいは「めぐみ」、というのでしょうか、この人は昭和47年に大阪で男の子として誕生しました。二人と

も、自分は本当に女なのか、自分は本当に男なのか、と悩んでいたわけです。この間も競艇のある選手が、女から男に変わりました。あのようなものです。二人は、平成9年に出会いまして、平成10年にめでたく結婚したのです。この二人が「Search (サーチ) きみがいた」という本を書きました。これは、徳間書店から出版されています。

どうしてこのようなことになったのかというと、男女の違いは母胎内での染色体で決まってくるのですが、ある時期に何か異変が起きると、男でありながら女であり、女でありながら男である、ということになってしまうわけです。私は、この人たちの血液型を知らないのですけれども、この「Search」という本を読んでみますと、本当に大変です。この左側の平安名祐生(夕子)は、自分は女だけれど、昔から男だと思っていたのです。変な話ですけれども、自分もいずれは「おチンチン」が生えてくるのではないかと、思っていたそうです。これも大変な話です。ところが、なかなか生えてこなかった。それで「やっぱりそうじゃないんだ、えらいことになった。」ということです。ですから、人間の性格を考える場合、どうしても生理的なものを考えざるを得ないのです。胎内のいろいろな問題を考えざるを得ないのです。ただし、心理学の場合は胎内のいろいろなもの考えることは出来ません。これは、他の専門家が行うことでして、私たちは血液型とテストで測定した性格との関係を調べているわけです。

次のページの5番目に「自律神経系の機能(はたらき)」とあります。私たちの神経系の中に「自律神経系」があります。この自律神経系は臓器の働きを管理している神経系です。心臓や胃腸の働きを管理している神経系です。この神経系が非常にうまく出来ておりまして、「交感神経系」と「副交感神経系」の二つから出来ています。交感神経系は一般に「働き者」の神経系です。副交感神経系は、どちらかということ「のんびり屋」の神経系であり、この2本で、我々の心臓や胃腸などを動かしています。これを「二重支配」と呼びますが、この二つのバランスが大体とれている人が普通の人です。しかし、どちらかということ交感神経が働き過ぎる人がいます。これが「交感神経緊張型」の人です。活発にバリバリと働く人です。田中真紀子元外相(A B型)はそうであろうと思いますし、小泉首相(A型)なども交感神経緊張型だと思います。

それから、もう一つはのんびり屋の神経系が働く人がいます。これが「副交感神経緊張型」の人です。のんびりしている人でして、「ひねもすのたりのたりかな」というタイプの人です。皆さんご存知の塩爺財務相(しおじい・A B型)は、副交感神経緊張型だろうと思います。ご当地の石原行政改革相は、おそらくA型で交感神経緊張型の人ではないかと思えます。

6番にまいります。ここに「二重人格・多重人格の謎は解けていない。」と書いてあります。解けていない謎は、他にもたくさんあります。例えば、月の大きさはその運行とともに変化します。地平線に出たときと中空に昇ったときでは、月の大きさが違います。何故そうなるかは解らないのです。昔からいろいろなことを、いろいろな人が言っているのですが、謎は解けていないので

す。

「二重人格」というのも解りません。2回変わるのが「二重人格」でして、3回以上変わるのが「多重人格」と呼びます。それでは、どうしてそうなるのかというと解らないのです。ある人は、テレビのチャンネルが突然変わってしまうようなことが、人格転換だと言っております。プリントにある枠の中の文字を見てください。

これは、アメリカのある女性の二重人格者なのですが、筆跡まで違ってくるのです。私が関係して知っている大学に、二重人格の女子学生が実際にいるそうです。真面目に話をしているときと、みょうに色っぽくなるときがあるそうです。こういう現象も解らないのです。何故そのようになるのか解りません。とにかく謎も大きいのです。

よく、血液型がA B型の人を二重人格と言いますが、とんでもない誤りでして、二重人格は自我まで変わってしまうのです。例えば、あるとき高円寺の商店街を歩いているとします。そのときに、バンと人格が変わって、じゃんじゃんいろいろな物を買ってしまふ。しかし、家に帰るとパッと人格が変わる。「何故こんなものを買ってきたんだろう？」となるわけです。本当に原因がよく解りません。小さいときによくいじめられたからだ、という人もいます。それもよく解らないのです。

7番目に「精神病の原因にも解らないものが多い」とあります。左側の写真の人は「自分はキリストだ。」と思っている、精神分裂病(いまは「統合失調症」と名づける向きもあります)の患者です。右側にあるのは、精神分裂病の患者が書いた文字です。こういう文字を自分で作ったりします。自分では読めるのですが、私たちには読めません。では、分裂病になる人や、その他の精神的な病気になる人に血液型の特徴があるのでしょうか。無いのです。大勢調べても関係が無いのです。

最近、問題が解決した病気に「ハンセン氏病」があります。昔は瀬戸内海の島などに隔離されていたのですが、そのような人たちの血液型を調べた研究があります。これも血液型とは関係が無いのです。本当に解らないことが多いのです。昔から西洋では私たちの性格には何か体の中の液体が関係しているのではないか、という考え方がありました。しかし、血液型とは関係がないのです。

それでは8番のところをご覧頂きたいと思います。「四気質説(よんきしつせつ)」と書いてあります。これは、ギリシャ・ローマ時代からずうっと続いているものでして、現在でも話題になっています。まず左からいきます。「黒胆汁が多い人」は黒胆汁質と言い憂鬱気味な人です。その次に「粘液が多い人」は粘液質と呼び落ち着いている人。「黄胆汁が多い人」は胆汁質と呼び気が短い人。それから「血液が多い人」は多血質と言って陽気な人。こういう学説がギリシャ・ローマ時代から今までずうっと伝えられているのです。証拠はないのですが大衆に親しまれています。皆さんは、宇宙探査で有名なアメリカのNASAを知っていると思います。NASAという施設では、宇宙旅行をするよう

な人は粘液質の人がいいのだ、と言っています。ギリシャ時代、ローマ時代からのことを今でも蒸し返しているわけです。

左下にある絵は外国書に載っていた絵を書き直したのですが、その下の絵をご覧ください。これは産能大学で出している心理学のテキストに載っていたものを写したものです。黒胆汁質の人は陰気です。光秀型か？というところでしょう。粘液質の人は割合に平気な人です。利家型か？、家康もそうかな？というところでは。その次は胆汁質で、短気な人です。信長型です。絵では何か怒鳴っていますけれども、しゅっちゅう眉間にしわを寄せています。これは信長型だろうと思います。それから多血質は陽気で、これは明らかに秀吉型です。秀吉の若いときはああいうふうなのですが、歳をとるとおかしくなってしまうですね。体内の液体が人間の性格を作っていくという考え方が血液型の問題にも波及してくるのです。

9番目をご覧ください。「気候・風土」が影響するのではないか、という考え方は。広いところに住んでいると気持ちも大きくなるというのです。関東地方の人は、気持ちが大きいそうです。どうしてかということ、広々としたところに住んでいるからだというのです。本当でしょうか？ それから、景色の良いところに住んでいると心も洗われて性格も善くなるというわけです。ですから、伊豆などで富士山を見たりして暮らしていると良い性格になるというのです。また、はげしい滝のそばに住んでいると気も強くなるというのです。また、すごい火山のそばに住んでいると気も強くなると言われていました。鹿児島などはその良い例です。すなわち、人間の性格はいろいろなものから影響を受けて作られているのです。

最後に10番です。「仮面」というのがあります。私たちは、「ペルソナ」と呼んでいるのですが、社会的な性格、すなわち、パーソナリティです。私たちはなるべく周りの人に不愉快な思いをさせないようにして暮らしています。ですから、ある場面では仮面を被っている、自分の言いたいことも言わないで過ごしている、ということにもなるわけです。ある会社の地下室に、部長や課長、係長と書いた大きなゴム人形が置いてあるそうです。社員が帰るときに殴って帰るのだそうです。ペルソナを脱いで帰っていく、ということになります。

その次が11番です。二人のアメリカの心理カウンセラーが「四つの自分がある」と言ったのを付け加えましょう。

まず1番に書いてあるように、「自分がよく知っていて親友も知っている自分」というのがあります。例えば「僕は数学が得意だ。」と言います。また「僕は国語がダメだ。」とも言います。これは、自分がよく知っている自分です。「僕は神経質だ。」というのもその中に入ります。

2番目は「自分は気づかないが、親友がよく知っている自分」というのがあります。「君はいつも、うまく責任を逃れるじゃないか！」などと言われると、「ああ、そうかなあ。」ということがあります。そして、「気がつかなかった！これから気をつけよう。」となります。

3番目は「自分は知っているが、親友は気づいていない自分」というのがあ

ります。「僕は、実は何々なんだ。」などというものです。自分は知っているけれども、親友もだれも気がついていない、要するに「秘密の自分」です。

それから、4番目は「自分も親友も、家庭の人もだれも知らない自分」というのがあります。私たちの心の奥底に沈んでいる自分です。例えば、ある男が舟に乗って海を渡って行く。そこに、槍を持って馬に乗った数人の男が波しぶきを立てながら、海上を追ってくる、というような夢を見た場合は、「一体それは何だろう？」ということになります。このような夢に現れてくる自分は、無意識の世界の中にいる自分です、と言われていています。これは私が見た夢ではありませんが、ある精神分析の人が、このような夢を見た人のことを次のように分析しているのです。「この舟は女を表しているのだ。男が舟に乗っているのは、自分は男だけれども、もう女性化しているのだ。馬に乗った人が槍を持って追いかけてくる、その槍は男性のペニス（男根）のシンボルなのだ。」ということです。「だから、その人は男性でありながら女性化していて男に追いかけられるのを怖れている。」のだそうです。よく解りませんが、おもしろい解釈です。私たちの心の中には私たちの知らない「私」も確かに住んでいるのです。

とにかく、性格を考えると実に難しい問題があるのです。それで私たちはいろいろなテストを使用して、「性格とは何か」ということを把握しようとしているのです。ですから、先にもお断りしましたように「血液型」は医学的検査で測りますからはっきりしています。ところが、心理学で測る「性格」は、はっきりしないのです。例えば、罪を犯した人が捕まったりします。そこで、近所の人たちに尋ねてみると、「親切な人だったよ。」とか「朝、きちんと挨拶するよ。」、あるいは「本当に、穏やかな人だった。」というのです。ですから、人間の性格は解らないのです。なかなか捉えられないものです。その性格と血液型とをぶつけるのですから、その点が非常に難しいわけです。

次のページの12番にまいります。「血液型で、この性格を捉えられるか？」ということです。血液型と性格は関係あるのではないかと最初に言った人は、「原 来復（はら きまた）」という医師でした。長野県の人です。そこに説明が書いてありますけれども、この人が大正5年5月31日付の『信濃毎日新聞』に血液型と性格についての記事を世界で初めて書いたのです。

ちょっと読んでみましょう。「或る種の猿は幾分のA成分を持って居るが、一般動物は多くはB成分である。欧米人にB成分の少なくして日本人に多き理由を以って、直ちに人間の賢愚を論ずることは、酷に失する嫌ひもあるが、性質を異にする點などは余程明瞭なことであらう。此の研究が更に進歩した暁には、一家族の遺傳的關係も判然し又進化學上必ずや大なる助けを成すであらう。（原文のまま）」と、このようなことを書いています。昔の新聞ですから、非常に読みにくいのですが、西洋ではある種の猿がA型であり、一般の動物はB型だということです。ヨーロッパやアメリカの人にはB型が少ないのですが東洋人には多いから、日本人は白人よりも劣っていると言いたいわけです。それで、原来復は、そんなばかなことはないと言っているのです。しかし、性

質を異にする点では余程明瞭であろうということです。要するに、O型の人、A型の人、B型の人、AB型の人で性格は違うであろうと言ったわけです。

その次に出てきたのが13番にある「古川 竹二（ふるかわ たけじ）」という人です。そこに写真が出ています。古川は東京女子高等師範学校に勤めておりました。現在のお茶の水女子大学です。この人は自分の家族や学校の教職員、生徒などについて調査をしました。その結果、次のような興味深い事実を発見したわけです。プリントの右下にそのことが表になっています。

まず、O型の人には「落ち着いている、被暗示性が少ない。」被暗示性が少ないというのは、「あなた、今日は顔色が悪いね。」と言っても、すぐ寝込んでしまうようなことがない、ということです。暗示性の高い人は寝込んでしまいます。それから、「感情にかられない、ものに動じない、きかん気である、他人にあまり左右されない、精神力が強い、事を決したら迷わない、意志が強い、根気がよい、おとなしそうでも自信が強い。」ということです。これがO型の人の特徴だと古川は言っているのです。中曽根康弘、森喜朗という首相経験者もO型です。それから、昔、ずいぶん威張っていましたあの吉田茂もO型です。

その次はA型です。小淵恵三元首相のような人です。「遠慮深い、内気、温厚、物事が気にかかる、事を決するとき迷う、用心深い、深く感動する、人とあまり争わない、自分を犠牲にする。」小淵恵三にピッタリ合うではありませんか。

その次はB型です。田中角栄さんはB型です。「気軽であっさり、物事を長く気にしない、物事に執着することが少ない、快活でよくしゃべる、刺激がくるとすぐ反応する、気軽に人と交わる、人の世話などをよくする、物事によく気がつく、物事をするのに派手である。」田中角栄はこれにぴったり当たるように思います。

それでは、もとのところに戻りましょう。古川は以上のようなことを言いました。さらに、長所として表れたときにはどうなるか？短所として表れたときにはどうなるか？ということも書いています。この本が、昭和7年に出版されました。『血液型と気質』という本です。これが当時2円50銭でした。大変高価な本です。今、古本屋でも5000円でもあるかないかでしょう。

私は、古川竹二の長男の人に会ったことがあります。群馬大学医学部法医学教室の古川研教授です。その人（古川研教授）に会って、いろいろ話を聞きました。そうすると、古川教授は「おやじがおかしなことを言ったのが広がって困っている。」と笑っていました。古川研教授は、父親の言っていることを信じていないのです。

その下を見てください。すでに疑問に思っている方もいると思いますが、右に挙げた一覧表にはAB型が書いてありません。古川はAB型の人には外面がB型で、気軽であっさりしているように見えるけれども、内面は物事を気にかける、わりに神経質な人である、すなわち、外面はB型で内面はA型である、と言っているわけです。あの、塩爺もそうですし、橋本龍太郎もAB型です。

A B型が二重人格などということはとんでもない話です。そのようなことはありません。その次に書いてありますが、だれでも内面と外面は違うものです。A B型が二重人格であるということとんでもない偏見が生まれたのは驚くべき誤解です。私たちは状況によって変わるので、そのようなことを言うならば、すべての人が多重人格になってしまうわけです。下の方にあるのはアメリカの雑誌に載っていたマンガです。お父さんでもいろいろ変わります。その絵にあるように、ペットに骨を見せびらかしている、奥さんに対しては新聞で顔を隠している、また会社に行って上司の前では爪を噛んでいる、「人間」はいろいろ変わっているのです。

古川の考え方がこのような立派な本になったのですけれども、それが潰れてしまうのです。皆（多くの有識者）から「そんなことは無い、そんなことは無い」と攻撃されて、潰れてしまうのです。

14番をご覧ください。「古川学説が潰れてから、約40年経ってから」と書いてあります。潰れたのはいつかと言いますと、昭和8年（1933年）の3月に岡山医科大学、現在の岡山大学医学部ですが、そこで開催された日本法医学会第18回総会で、古川の考えたことが潰されてしまうのです。「証拠をあげろ、そんなんじゃダメだ！」などと言って、結局のところ血液型と性格とは、古川の言うような密接な関係はない、ということが解ってしまったのです。

それから40年間、血液型と性格についてだれも触れなかったのです。ところが、40年経って、そこに顔が出ていますが「能見正比古（のみまさひこ）」という作家が古川学説を復活させたのです。この人は大宅壮一という有名な作家の弟子です。その能見正比古が次のような本を書きました。そこに出ています『血液型でわかる相性』という小さな本です。この本がバカ売れしました。血液型と「相性」を組み合わせることが特に女性には受けが良かったのではないかと思います。とにかくずいぶん売れたそうです。

能見さんは1925年生まれで、大正14年です。生きていれば、私と同じ歳になります。9月の初旬にある学会があるのですが、そこで今度、私はこの人を記念して「能見正比古 生誕77年記念」という研究発表をすることにしました。

次を見てください、15番です。能見さんは自分のアイデアで「血液型と性格」の問題を本にしたのかと言いますと、そうではなくて、古川さんの考え方をおもしろおかしく、しかも易しく、いろいろなところで講演したのです。古川の時代にはテレビなどはありません。能見の時代にはカラーテレビがありました。それにマス・コミが猛烈に発達していたのです。能見は、テレビ局やラジオ局などいろいろなところから引っぱり尻で頻りに血液型についての話をしたわけです。それは、能見正比古の長男である俊賢の時代にも続いています。私もそういう番組をたくさん見ましたし、雑誌もずいぶん買いました。「anan（アンアン）」という雑誌があります。高円寺に買いに行ったのですが売り切れていたの、しょうがないので中野まで行って買いました。そうしたら、売っている人が、「だんな、今これ売れているんですよ」と言うので、何か恥

ずかしくなりました。とにかく私も興味を持って見ています。

まず、A型は何か？ということです。これは、古川の考えをおもしろおかしく、写し替えたものです。写し替えたというのは、引き延ばしたわけです。表をご覧ください。「周囲や相手に心を配る、平穏な人間関係を望む、世間の慣習やルールを尊重する、秩序やけじめを大切にする、緻密な思考と注意力を持っている。」と、こういうふうに書いてあります。さらに、それが長所として表れたときはどうか？短所として表れたときはどうか？などが書いてあります。

その次はB型です。「束縛されるのを嫌う、型にはまらない行動をする、柔軟な思考と感受性がある、照れ症と屈折した表現がある。」とあります。恥ずかしがり屋なのです。だから、どうしても自分の考え方をポンと出せないで、ちょっと曲げて出しているのです。それから「周囲にとらわれない」とも書いてあります。

その次はO型です。左下のほうに書いてあります。「ストレートな欲求欲望を表現する。」というのです。例えば「俺は、食べたいんだ！」などと言ったりします。そして、「豊かな自己主張と自己表現をする、言葉の使い方がうまい、勝負の意志が強い。」とも書いてあります。

それから右側へいきます。A B型です。古川はA B型については何とも言っていないのですが、能見はA B型を新しく作ったわけです。「人との調和を強く望む、人に役立つ行動を欲する。対人関係にも合理的である、批評を好み分析も鋭い。」と、こんなことが書いてあります。

私がこれを印刷して学生に試してみました。そうすると、皆「当たってる」と言うのです。ところが、印刷物にA、B、O、A Bという標識を入れないで学生に渡してやってみるとダメなのです。当たらないです。しかも、Aと書いてあるところにOと書いて偽物をつくりまします。そうすると、皆、引っかかってしまうのです。この事実は、いろいろなテレビ番組で放映しましたが、皆、引っかかってしまうのです。ですから、本当に血液型と性格が関係あるのかは、はっきりしないのです。

その次に16番を見てください。これは、私が三峯神社に行ったときに引いた「おみくじ」です。私はA型なので、A型の性格というおみくじを買ったわけです。そうすると、「周囲に細かく気を遣い、相手や周囲との間に波風が起こるのを特に嫌う。」とあり、ピッタリ合っているのです。「感情や欲求は抑制するほう。」言いたいことも言わないのです。「ソツとした思いやりや、察しあいを大切にする。筋を通し、ものごとのケジメ、黒白をハッキリつける。シンは一番ガンコで短気。」「責任感、使命感が強く、根気強く常識的な人が多い。」と書いてあります。皆さん方の中でA型の人はいかがでしょうか？

下のほうに「相性表」というのがあります。私はA型で妻はB型ですから「凶」です。「凶」ですけれども40年くらいも持っています。あるテレビ局で、大勢の夫婦について調べましたけれども、結局デタラメだったということが分かりました。合っている人もいるし、けれども、全然合わない人もいるの

です。

下の17番を見てください。これは、ある人が地方別、男女別に作ったものです。例えば、これは関東地方だけの資料なのですが、関東地方の男性でA型の人は、「常識人で、エリート意識も旺盛で、女性のエスコートも上手で、デートもバッチリ決めてくれるが、意外とケチだったり、マザコンの傾向がある。」というのです。母親にグッと支配されているわけです。それから、女性のA型はどうかというと、「知的で清潔感のある、お嬢様タイプで、ガードがかたい。」のだそうです。そして、「人見知りも激しい」そうです。「一度打ち解けてしまえば親しみやすいが、やや傲慢で人をバカにしたような態度をとったりする。」ということです。どうでしょうか？

ところが結局、普通の血液型性格学の本でA型同士を比べると、「おまえと俺とは、同じA型なのに実際は違うじゃないか。」ということになります。そこで、地方別で差をつけようではないか、ということになるわけです。「あなたは、どこ？」「東北だ。」「俺は、関東だ。」そうすると、風土や食べ物が違う、だから違うのだ、ということになるわけです。作るほうも、なかなか苦労しているのです。血液型で地方別のイメージがつくられていくのです。

その次に18番を見てください。血液型と何かを関連づけることについては、わが国は有名でして、いろいろなものに血液型が使われています。香水にも血液型別がありますし、カレンダーでも血液型別があります。4種類です。私も買ったのですがバカをみました。O型のカレンダーは文字がものすごく大きいのです。A型のカレンダーは文字が細いのです。B型のカレンダーは文字が流れていて見にくいカレンダーです。そんなカレンダーをあるデパートで4種類買いましたけれども結局役に立ちませんでした。それから、ハンカチでも血液型ハンカチというのがありますし、血液型ショーツ、血液型ドリンクなど、そういうものがたくさんあるのです。

血液型でイメージがつくられてしまうのです。まず、プリントに載っているA型の男子の様子を見てみましょう。「従順でおとなしい、慎重で細心、謙虚、心配性、意志が弱い、決断力に乏しい、孤独で非社交的で、内気」と出ています。B型の人は、「快活でおしゃべり、でしゃばり、社交的、物事を長く気にしない、執着心が少ない、慎重さに欠ける」というのです。その次はO型の男子です。「自信が強い、意志堅固、理知的で感情にかられない、頑固になりやすい、融通がきかない、個人主義」であるということです。次はA B型の男子です。何か、すねたような恰好をしています。「表面的にはB型で、内面的にはA型の2面性を持つから、それが起こる」というのでしょう。「個性的、感覚が鋭い、知的で繊細、合理的で短気」と書いてあります。A B型は、なかなか捉えにくいのです。

ここで気がついたのですが、O型のところに、「頑固になりやすい」と書いてあります。だじゃれのようなのですが、O型の人はガンに「なりにくい」と言われています。本当にそうでしょうか？ それに対して、A型の人は、「なりやすい」というのです。しかし、ガンの専門病院の医師に訊きますと、「そんな

ことは無い」と否定しています。では、無いと言うなら証拠に統計的なものがあるのかというと、統計的な資料はとっていないのです。けれども、O型はガンになりやすく、A型はなりやすいというわけです。私もびっくりしているのです。肺結核を患った人はガンになりにくいと言われていました。私も以前肺結核になったものですから、「ああ、大丈夫だなあ！」と思って医師に訊いたら、それも当てにならないというのです。ですから、そういうことはみんな当てにはならないのです。

それから、その右側を見てください。『血液型人間学のウソ』と書いてあります。これはTBSでお馴染みの森本毅郎の著書です。これを書いたために森本は血液型の信者からずいぶん攻撃されました。その下の本は私の本で『血液型と性格』です。

それから19番を見てください。血液型と性格については北京でも出版されています。下のほうにある本(表紙のみ)ですが、1993年、平成5年6月に、「曲音(あちらの人の名前で、ペンネームだと思う)」という人が、北京で出版したものです。もちろん日本の本の翻訳版です。プリントの右上に鈴木芳正という人の写真が出ていますが、この人が書いた本に他の資料を加えたものが北京で出版されたのです。また、台北でも「血液型と性格」に関するパンフレットが出ています。私の手元にあるこの本が北京で売っていた本です。4冊になっています。表紙には、「血型O」と書いてありますから、「血液型O」でしょう。それから、「星座・命運」と書いてあります。その中のマンガをいくつか持ってきたのですが、O型は「政治家」に向いているそうです。それから、A型は「頑固」で、B型は「朗らか」で、AB型は「二つの顔」を持っているというのです。ずいぶんひどい話で誤解される一方です。

私が最初に言いましたように、「血液型と性格」は関係が無いのです。関係があると思うのは、それは結局、誤解であり、錯覚です。東北の人は頑固であるとか、大阪の人は商売がうまいなどとよく言われています。阿波の女の人とは色っぽいと言います。徳島の女の人とは色っぽいということです。色っぽくない人もいるだろうと思いますので、それこそ怪しい話です。だから、私は20年くらい前から、そんなことは無いのだと言っているわけです。もちろん、それに対して反発する人もたくさんいます。松田薫という人がいまして、その方の『血液型と性格』という本があります。その中で、「大村は、何をバカなことを言っているか。」というのです。それから、亜細亜大学の前川輝光という先生が書いた『血液型人間学』という本があります。この中で、私のことをさんざん叩いているのです。私は知らずにそれを見たときに愕然としましたが、私もまたいつか反撃しようと思っています。とにかく、関係は無いのですが、あるように見えるところがおもしろいのです。

それでは20番を見てください。そこに、歴代の総理大臣の顔写真と血液型が出ています。まず、東条英機です。東条は「カミソリ東条」と言われた、非常に頭の切れる人でした。この人はB型です。それから小磯国昭は分かりません。終戦当時の総理大臣だった鈴木貫太郎、この人も意志の強い人でした。O

型です。そして、鈴木貫太郎の後に臨時的に総理大臣になった東久邇宮稔彦、この人もO型です。それから幣原喜重郎は、O型です。1回だけ総理大臣になりましたけれども、選挙に負けて辞めました。その次に出できたのが吉田茂でして、大磯からパトカーが先導して東京までフルスピードで走ってきたというのです。この人もO型です。皆さんご存知のマッカーサーという占領軍の司令官がいました。マッカーサーがある時吉田首相に、「何か、私に希望があるか。」と訊いたところ、「1日も早く、帰ってくれ。」と言ったという、おもしろいエピソードがあります。なにしろ大変な人だったようです。その次は、片山哲はO型、芦田均はA型、鳩山一郎、今の鳩山兄弟の祖父に当る人でA型、都合3回、首相をしました。それから石橋湛山はO型。この人は総理大臣になりましたが病気になり、アツという間に辞めました。岸信介はO型。それから池田勇人はO型。この人は、「貧乏人は麦を食え」と言った有名な人です。それから岸信介の弟で佐藤栄作はA型。そして、有名な田中角栄はB型、三木武夫はA型、今の官房長官の父親で田中角栄とは敵対関係の福田赳夫はO型。大平正芳はO型。この人は、総理大臣のときに亡くなりました。結局、小淵と同じような運命をたどった人です。そして、鈴木善幸はO型、中曽根康弘はO型、この人はまだ頑張っています。竹下登はB型、話し方がおもしろい人でした。それから宇野宗佑はA型です。神楽坂を通ったときに芸者を見初めた人です。それから海部俊樹はA型、宮沢喜一はA B型、細川護熙はO型。羽田孜はO型。村山富市はO型。橋本龍太郎はA B型。小淵恵三はA型、森喜朗はO型、それから小泉純一郎がA型。とにかく、総理大臣にはO型が多いです。田中真紀子はA B型です。下のほうに、小泉が結婚したときの写真がありますが、今は離婚しています。福田赳夫が仲人ですから、今の官房長官とは密接な関係にあるわけです。

総理大臣の血液型を統計的に調べてみました。その場合に、吉田茂のように5回もしている人は、これはやはり1回としてカウント出来ないのです。鳩山一郎の場合も3回です。そのようにカウントをしていきますと、O型が26人もいるのです。圧倒的にO型が多いのです。ある動物学の評論家が、O型はガンに強くて病気にならないから、すなわち長生きをする。長生きをすれば永田町で勢力を得る。そこで、総理大臣になる機会が多いのだ、と言っているのです。びっくりします。

昭和天皇はA B型です。今の皇族はほとんどA型でして、皇太子妃の雅子さまはA型です。それから、紀子さまもA型です。ある人は、外交官は性格が強くなければダメだ、性格が強くないと日本の外交がダメになる、それで外交官にはO型が良いのだと言ったのです。だから、失礼な話ですけど、雅子さまが外務官僚に残っていても、A型なので出世の可能性は少なかったことになります。この間の中国・瀋陽の事件ですが、あのあたりについて調べてみたら、もしかすると領事館員は、A型の人ばかりだったかもしれません。O型の人がいれば、もっと強く出られたのかもしれない。

最後に、私がある自動車会社の雑誌に連載した、「血液型と性格」という資

料があります。何か機会があったら見ておいてください。それから、1枚、バラで配ったものがあります。それを、見てください。

そこには、1番から64番までの項目が並んでいます。最初に種明かしをしますと、1番から16番まではA B型によくある性格と言われています。それから、17番から32番まではA型の特徴です。それから、33番から48番まではB型の性格です。あとの残りはO型です。

血液型別に区切られていれば、「あ、これが自分のだな」と思うので、自分のものに多く丸をつけてしまいますが、このように何も区切らないで、多くの人に配ってイエスかノーかで応えてもらうようにした場合、どれがどれだか分からないので、自分の性格に合っているものにだけ、丸をつけることになります。そうすると、必ずしもA型の人のお印はA型の欄のところには集まらない、B型の人にはB型のところには集まらない、ということになるのです。なぜこのようなものを作ったのかと言いますと、今、私が卒業論文を指導している女子学生が「血液型と性格」を研究しています。それで、おもしろいものを作ってくれというので作ってみました。これから、いろいろな人が引っかかるのを待っているところです。しかし、いまここで皆さんを引っかけるのは失礼なので、最初に種明かしをしたわけです。皆さんが、そういうことを全然忘れてしまって、この項目にイエス、ノーとお印をつけていきますと、必ずしもA型の人のお印はA型のところに集まらないのです。ほうぼう散らばってしまいます。

しかし、総理大臣になった人の血液型を眺めてみると、何だか関係があるのではと思えてくるのです。「吉田茂はO型だ。何かそうだなあ」「森喜朗もO型だ。そういえば体も大きいし...」と、そういうふうに思えるわけです。そういうイメージがこんこんと湧いてくるのです。そういうことがあるので、日本において「血液型と性格」の話が無くならないのでしょうか。いくら私が反対したところで、あるいは反対する人が多くなっても、これだけは日本から無くならないと思います。

あるとき、カナダの女性科学者が、日本でなぜ、血液型が流行するのか、ということ調べに来ました。私は、昔の「士農工商」という四民制度も影響しているのではないかと言いました。武士は強いからO型である、商人は愛想がいいからB型である、農家の人是我慢強いからA型である、それから、いろいろなものを工作する人はアイデアマンだからA B型である。これも当てにならない話です。

ある会社で、新製品を作りたいということで、重役が社員を何名か集めました。「君たち、我が社のために新製品を作ってくれ。」と言ったそうです。そうすると、その人たちは、「なぜ、自分たちが選ばれたんだろう？」と不思議に思いました。そこで、皆で相談しました。「訊きに行こうじゃないか。」ということになりました。すると、重役が、「君たちはA B型なんだよ。A B型はアイデアマンだ。だから、頼んだのだ。我が社のために良い仕事をしてくれ。」と言ったそうです。ところが、それが新聞に出て、マス・コミが押しか

けてきたものですから、とうとうそのグループが解散することになってしまったというのです。「やっけていても、しょうがないや。」というわけです。ああいうものは隠れてしているからおもしろいのですが、テレビや新聞に出てしまうと、どうしても新製品を作らなければならないということになり、ストレスフルな立場に追い込まれてしまうのです。

これからも、まだ、「血液型と性格」は流行るだろうと思います。楽しみです。今日は、これで終わりたいと思います。（拍手）